



オールドコペンハーゲンの街角

「ゲン」と呼ばれ、デンマークの「チボリ」が開園した19世紀のコペンハーゲンの町並みが再現されている。路地の石畳は、同じヨーロッパのベルギーで道路改修工事の時に不要になった石を譲り受けて敷き詰められたもので、実際に歴史があり、趣を感じさせる。

園内全体では、小さな子どもからお年寄りまでが遊べる22のアトラクションと、毎日なにかしらのショーやコンサートが繰り広げられている4つのステージを備えている。

おすすめアトラクション！

① アンデルセンシアター

倉敷チボリ公園には、アンデルセンの作品をモチーフにした、パビリ

10周年に向けてチャレンジ
倉敷チボリ公園
花弥 祐美

噴水から、ふいに水が飛び出し、子どもたちがキヤキヤ言っている。別の一面では、ブタのおしりを押しつら、ブタが話しかけてきた。にぎわいを通り過ぎて歩いていくと、小川が流れ、静けさに包まれる。木陰のベンチでうつらうつらするおじいちゃん。そんないろんな顔を持つ倉敷チボリ公園を、もう少し紹介したい。

北欧のテーマパークにならって

倉敷チボリ公園は、北欧デンマークにある世界最古のテーマパーク「チボリ」にならって緑や花の豊かなテーマパークとして、JR倉敷駅北側のクラボウ工場跡地に、平成9年7月にオープンした。5万本の樹

木と、200種類55万株の花々が四季を通じて訪れた人の目を楽しませてくれる。色々な形の噴水や彫刻が点在していて、そぞろ歩きを飽きさせない。

園内はAからDまで4つのゾーンに分かれている。



倉敷駅から見たチボリ公園



チボリ湖と「サンゲオ号」

Aゾーンには公園のシンボル「チボリタワー」があり、デンマークの文化や歴史を映像で紹介している。

Bゾーンのチボリ湖には、デンマーク女王の護衛艦として17世紀に活躍した「サンゲオ号」が再現され、堂々と浮かんでいる。

オンが多い。その一つ「アンデルセンシアター」は公園奥のアンデルセン交流館の中にあり、アンデルセンの代表作「はだかの王様」「マッチ売りの少女」「人魚姫」「みにくいアヒルの子」の4作品を、人形の歌と踊りで紹介している。

同じアンデルセン交流館には、北欧の童話600冊をそろえた図書館があり、絵本の読み聞かせも行われている。いずれも、アトラクションは無料。

② チボリ鉄道

首の据わった赤ちゃんより年上まで、階段を上って乗り場まで行ける人なら、お年寄りでも障害を持つ人でも誰でも乗れるという素晴らしい「超低速ジェットコースター」。超低速だが、音楽に合わせて少し速度を上げたり、カーブを曲がったりと、意外にスリリングだ。チャイルドシートを完備。A券5300円

③ チボリバルーン

ゴンドラの一つ一つにバルーンがついている観覧車。気球に乗っているような気分になれる。夜はバル



観覧車、チボリバルーンから見たチボリ公園と倉敷の町

ーンが光る。全長40メートル。ゴンドラ24基。一周8分30秒。(A券5300円)5歳以下は大人の同伴が必要

お年寄りや子どもたちに愛される公園

他の大きなテーマパークとの違いの一つは、ベンチの数の多さだ。5万本の木々は、たくさん木陰を作り出した。その下には必ずといっていいほどベンチがあり、くたびれたらすぐに腰掛けられる。出来れば、テーマパークは楽しいけれどとて

開園10周年に向けて、デンマークの「チボリ」にならない、その一年を代表するイヤーズポスターを作

(3) もっとチボリを知ってらおう

園を元気に続けていくためには、やはりリピーターに来てもらわなければならない。そこで、年間入園券「チボリフレンズ」を発行している。大人6000円、中・高校生5000円で、一年間、入園が無料になる。一般の入園料は大人2000円、中・高校生1700円なので、3回行けば元がとれる計算だ。

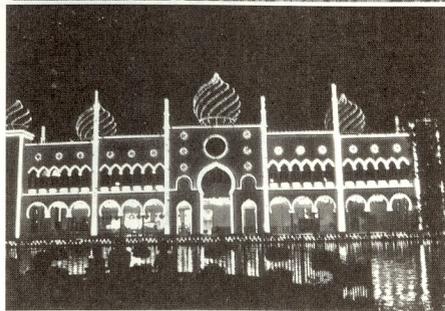
チボリをハートフルな公園と一緒に育てていこうという個人会員組織「ハートフルクラブ」は入会金が5万5000円で年会費などはない。終身で入園料が無料となり、早朝入園できるなどの特典があるので、毎朝8時ぐらいに来て鳥にエサをやっている人もいる。

一旦公園の外に出ても、再入場スタンプを押してもらえば当日中は再入

楽しいよ！



植栽タッグ 開園中のテキパキ作業



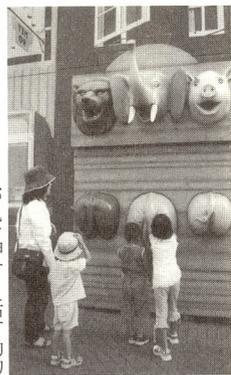
ライトアップされた夜の公園

る。ゆくゆくは、地域創造の拠点となることが理想だという。

(2) リピーターを増やそう

園内には、15種類の噴水と、アンデルセンや人魚姫など5基の彫刻、いろいろないわれを持つオブジェなどが配置されている。身長や年齢の制限で限られたアトラクションしか利用できない子どもたちでも、全部の噴水を見つけれられるかを試したり、人魚姫の像には足があるかなどを問題にしたクイズラリーに挑戦したりできる。「こども劇場」や屋内劇場「カルケバレン」で無料のショーを楽しんでもいいし、アンデルセン図書館で絵本の読み聞かせに耳を傾けてもいい。

冒頭で触れた、お尻を押すと話しかけてくるブタや象は、園内のどこかにいる。また、グランドピアノが



お尻を押すと話す動物



グランドピアノ自動演奏は、トイレの中で、倉敷チボリ公園は、小さな驚きをそつと用意してくれている、気配りの行き届いたテーマパークなのだ。

オープンから10年 新たなチャレンジ

駅から徒歩1分という地の利をいかして、オープン直後は年間300万人が訪れた倉敷チボリ公園だが、来年で開園10周年を迎える。客足は3分の1にまで落ち込んでおると、いろいろなアイデアを

自動演奏を続けているトイレと、小鳥のさえずりが聞こえてくるトイレも園内のどこかにある。それは、行つて探していた大きくして

(1) 地元の人に来てもらおう

まず、地元の人に愛される公園にならなければと考えられたのが、市民参加型のイベントだ。中学、高校の吹奏楽部によるコンサートを開いたり、「ミュージックパビリオン」や「こども劇場」のステージを観客参加型にしたりすることで、地元の人に家族で来てもらおうというわけだ。

倉敷商業高校の文化祭「倉商フェア」をチボリ公園で開くなど「チボリを発表の場にしませんか」とも呼びかけている。

また、倉敷市民や倉敷へ通勤・通学している人々にステージ発表や出店をしてもらう「倉敷生活文化祭」は、今年で3年目を迎えた。倉敷や周辺の町の人でも、まだまだチボリ公園に来たことのない人がいるはずだからと、地元の中でチボリ公園の知名度を上げるのが目的だ。逆にいろいろな人に見てもらえる場で発表できることで地元の人に喜んでもらうことも大切だと考えてい

ることにした。作品は全国から公募し、現在、全作品を園内で展示中だ。まもなく決まる最優秀作品が、来年のイヤーズポスターとなる。公募することでチボリ公園を知ってもらえるほか、作品を展示することで関係者に関する情報も提供できると期待している。イヤーズポスターは今後も作る予定だということ、すでに第2回の作品の公募を始めている。

緑が可能なので、10数万個のイルミネーションが輝く夜景を見に、夕食を済ませてから再び訪れた。イルミネーションは、120年前前にデザインされた「チボリクーパー」という照明で、マロニエの実を連想させる。バルーンが輝く観覧車に再び乗った。建物や噴水やいろんなものがライトアップされ、昼間の親しみやすい雰囲気から、少しおしやまな様子に変わっていた。チボリ公園の昼と夜の顔を見比べるためにも、倉敷に一泊することをおすすめしたい。